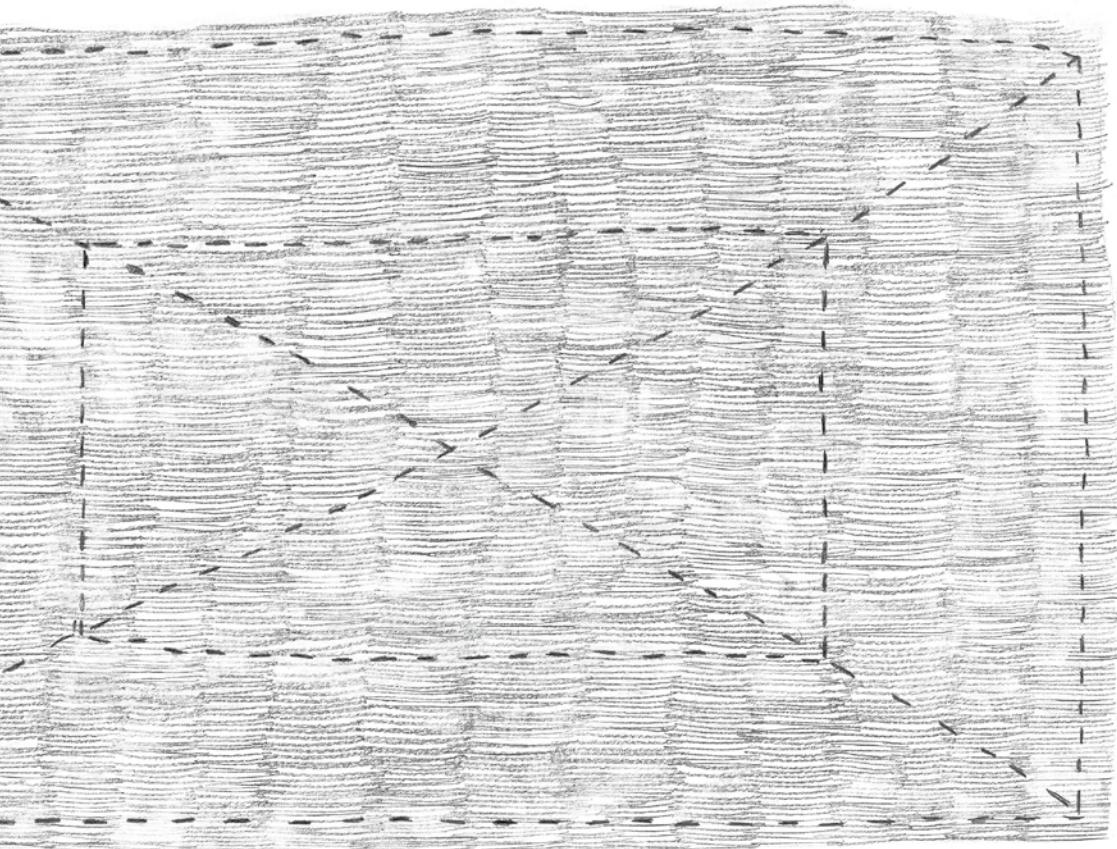


くらし
中心

no.01

そうじを楽しく



無印良品



「暮らしの良品研究所」が スタートしました。

無印良品は1980年、たった40アイテムの食品や家庭用品を売ることから始まり、お客様の共感を得て成長し、今では7000にもおよぶ商品を提供しています。生活の基本を満たすことを第一の理念に誕生したそれらの商品は、生活者であり消費者であるお客様とのさまざまな交流の中から生まれ出されたものです。2009年秋、私たちはよりいっそうの良品をめざして、社内に研究の場をスタートさせました。「暮らしの良品研究所」と名づけたこの“ラボラトリー”は、店舗とインターネットを介してお客様と対話しながら、既存商品を点検し新しい商品を育て、世界のより多くの人々に「これでいい」と共感していただける、感じいいくらしのかたちを考えしていく場所です。「くりかえし原点、くりかえし未来。」を合言葉に、これから時代に求められる良品像について、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

第1回
研究テーマ

そうじを楽しく

そうじは、「毎日するもの」とされている基本的な家事ですが、毎日できる人ばかりではありません。たとえ時間があっても、できれば効率的に短時間でませたい、と誰もが思っていることでしょう。本当に必要なそうじ道具とは?その上手な使い方は?洗剤は?主体的に考えてみると、そうじも楽しみのひとつになるかもしれません。

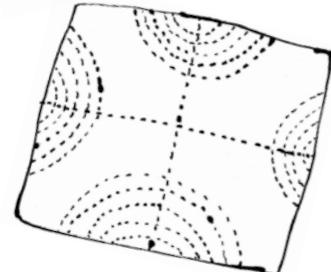
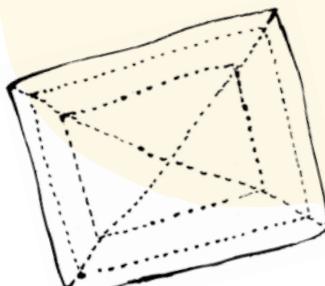
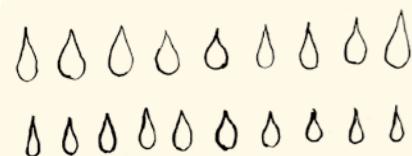


たどり着いた答は、

自立するフローリングモップケース。

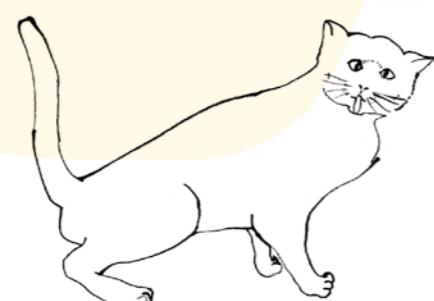
そうじについて研究するうちに、多くの方が抱える問題が見えてきました。
その問題を解決すべく、私たちがたどり着いたひとつの答が、このケース。
みなさんとのコミュニケーションを通して、新商品が生まれるまでの道のりをご紹介します。

「そうじを楽しく」という
研究テーマを決めました。



ウェブサイトでは、日々
お客様の声をお聞きしています。

「くらしの良品研究所」のウェブサイトには、毎日、たくさんの投稿をいただいている。それらのお客さまの声は、アンケートの試問づくりなどに活かされます。



たくさんのご家庭を訪問して
そうじ道具の実態を調査しました。

そうじ道具の収納場所を見せていた
だいたり、困っていることをお聞きし
たり。実態を撮影し、研究材料として
活用しています。

詳しくはP6へ

~~~~~

ウェブサイトで、  
そうじ道具についての  
アンケートを行いました。



「自立するフローリングモップケース」  
というアイデアが出てきました。

多くの方が頻繁に使われていたフ  
ローリングモップに着目。すぐ取り出  
せて、目につくところに置いても美観  
を損なわず、自立できる。そんな新し  
いケースの商品化を目指すことにな  
りました。



3つのアイデアを提案して、  
人気投票を行いました。

フローリングモップを、もっと気軽に使えるようにするには、  
どんな機能が必要だろう? そんな発想から、切り口の異なる  
3つのアイデアを提示しました。

詳しくはP11へ

~~~~~



もっとも得票数の多かった
アイデアをもとに商品化しました。

詳しくはP11へ

~~~~~



どのくらいの頻度で、どんなそうじ道具を使っているかを  
お尋ねしました。寄せられた回答は9,247件。その中から、  
「手軽なそうじ」「ていねいなそうじ」「そうじ道具の収納  
場所」というキーワードが見つかりました。

詳しくはP8へ  
~~~~~

くらし観察

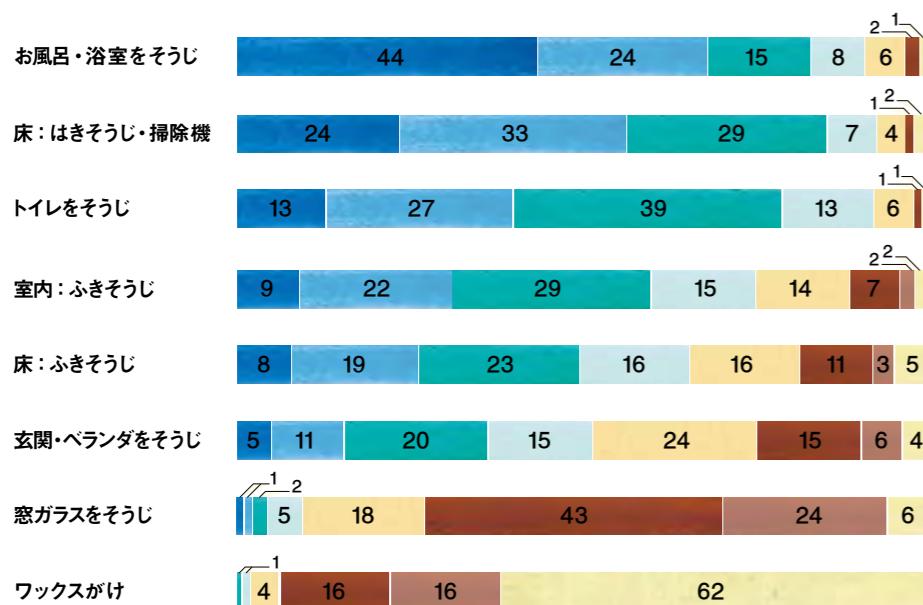


そうじ道具についてのアンケートレポート

あつたら便利な道具とは何か、本当に必要な道具とは何かを探るため、みなさんがどんなそうじ道具をどのくらいの頻度で使っているかをお聞きしました。また、家族形態別に分類して、特に、共働きや子育て中の“忙しいご家庭”的そうじの実態に注目してみました。

「そうじ道具についてのアンケート」2009年11月実施 9,247名参加

家の各部分を、どれくらいの頻度でそうじしていますか？



結果
1位はお風呂のそうじ
2位は床のはきそうじ

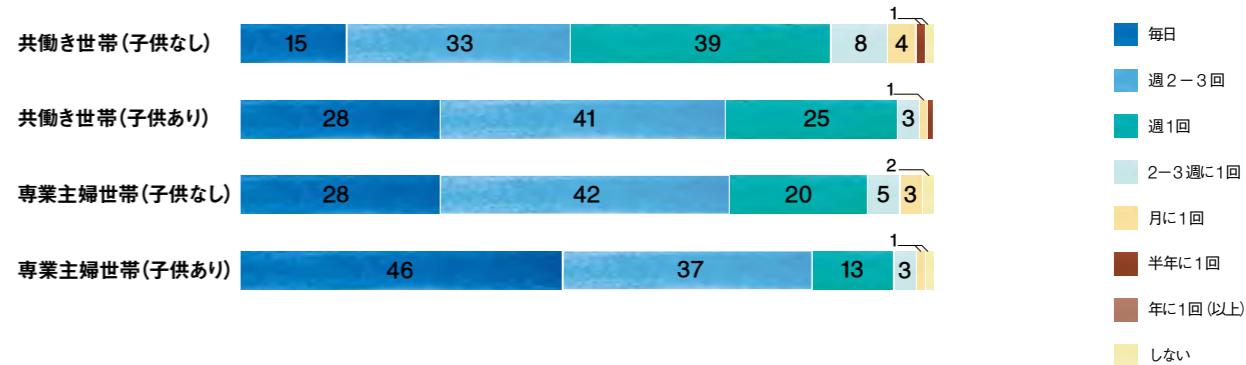
62%の方が、ワックス掛けをしないと答えています。新しい家ではワックス掛けのいらない床が増えているのも理由の一つかもしれません。替わって、日々の簡単でドライな床そうじが求められているようです。



お客様から寄せられた
「教えてあげたい
そうじのコツやアイデア」。
「暮らしの良品研究所」への投稿から

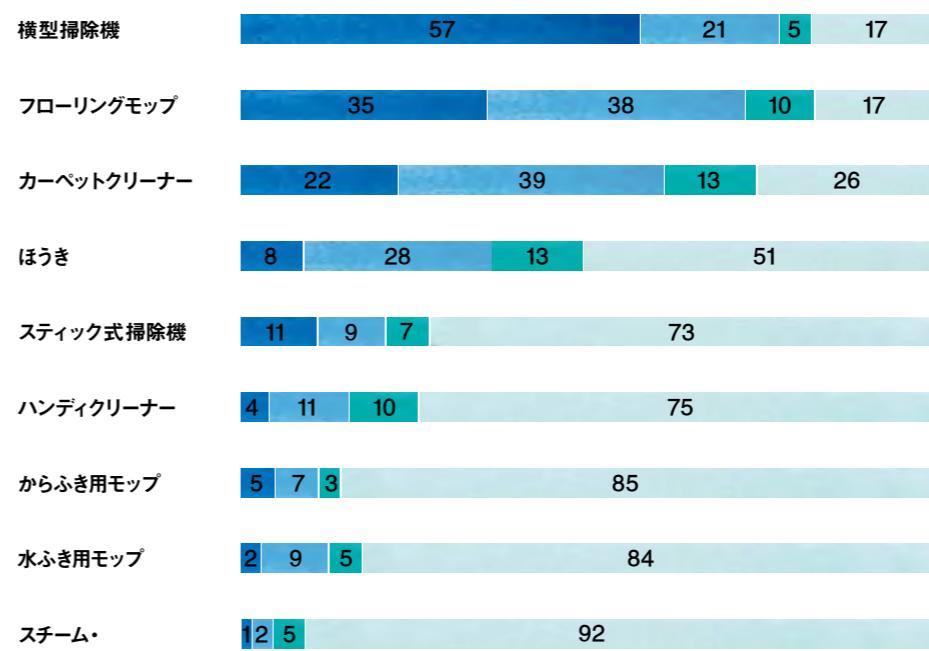
ペーパータオルやカーペットクリーナーなどをセットにして、家のいろいろな場所に置いています。インテリアの邪魔にならないよう、おしゃれな箱に収納し、気が付いたらすぐ拭く、捨てる。そうすると、大変な掃除もせずに部屋がきれいに保てます。
(女性・30代前半／夫婦+子供世帯／共働き)

床そうじの頻度を、家族の形態別に比べてみました。



結果
子供がいるか、いないかで、
床そうじの頻度は約2倍も違います。

床そうじには、どんな道具を使っていますか？



結果
1位は横型掃除機
2位はフローリングモップ

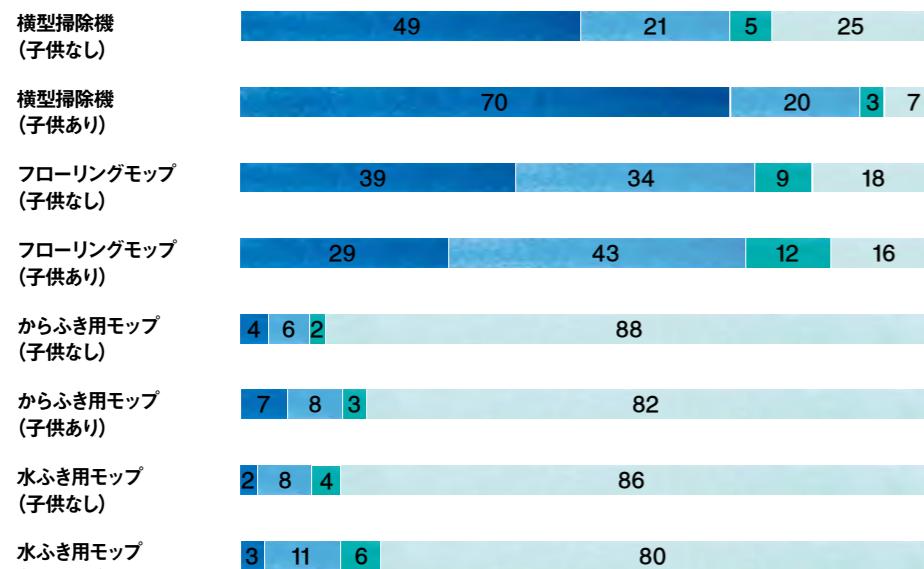
毎回使う道具は「横型掃除機」という方が最も多いですが、その次に多いのが手軽な「フローリングモップ」です。最近のマンションなどでフローリング床が増えていることも要因のひとつかもしれません。

お掃除は、掃除しやすい部屋づくりから。やはり収納がすっきりしていれば、その分、掃除しやすいと思います。出したら、片付ける。そこからお掃除なのかなーと思ったりします。
(女性・30代後半／ひとり暮らし)

床掃除が楽にできるようにと、母は、床上のもののほとんどにキャスターを取り付けていた。私も、キャスター付きの家具や小物収納を選んでいる。
(女性・30代前半／夫婦世帯／共働き)

棕櫚などの小さなほうき(20cmくらい)を各部屋に置いている。気が付いたらちよこちよこっと掃除ができるので、大きな掃除をしなくてすむ。Tシャツ・トレーナーが古くなったら、捨てずに適当な大きさに切ってウエスにする。
(女性・60代)

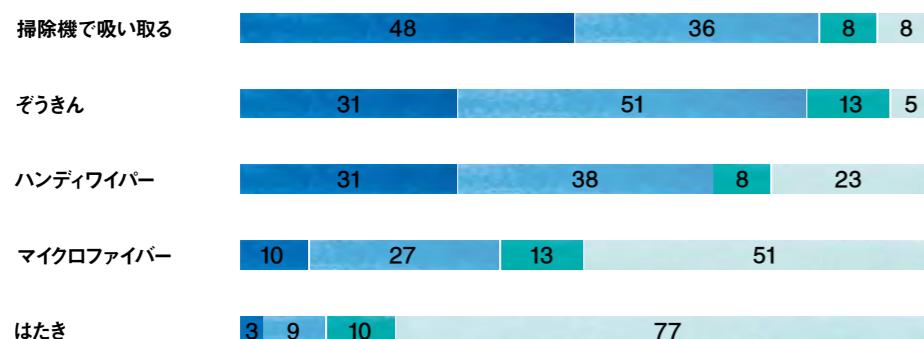
子供のあり／なしによる、床そうじの道具の使用頻度(上位4アイテム)



結果
子供なし世帯は
フローリングモップを
頻繁に使っています。

「フローリングモップ」の使用頻度のみ、子供なし世帯が子供あり世帯を上回りました。ひとり暮らしに代表される床汚れの少ない世帯では、思い付いた時にさっとそうじできる手軽なアイテムへの支持が高いことがわかります。

ふきそうじには、どんな道具を使っていますか？



結果
1位は掃除機
2位はぞうきん

ふきそうじにも「掃除機」を使う(アタッチメントを利用してホコリを吸い取る)というのは、興味深い結果です。床から棚など、すべてを掃除機でこなす人も多いようです。掃除機の使い方についても、さらに研究の必要がありそうです。

収納スペースが充分にあって、目に見えるところに物を置かず、ただ拭けばするような状態であれば、掃除ははるかに楽だと思う。
(女性・30代後半／夫婦世帯／共働き)

ちょっと高価でも、お気に入りの掃除道具で掃除する。掃除用具は取り出しそういところに収納し、気になった時すぐ使えるようにしておくと、おっくうにならない。
(女性・30代後半／夫婦世帯／共働き)

無印良品が出した答。

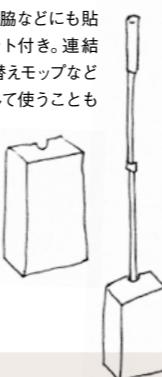
アンケートの結果から、フローリングモップに必要な新しい機能は、「すぐに取り出せて、目につくところに置いても美観を損なわず、自立できること」だと考えました。そこで考えたのが、自立するフローリングモップケース。切り口の異なる3種類のアイデアに対して、みなさんのご意見をお聞きしました。

878票

130票 273票

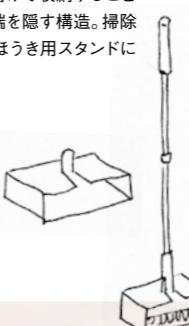
連結できるスリム型ケース

モップを立ててスリムに収納できるケースです。冷蔵庫の脇などにも貼り付けられるマグネット付き。連結すれば、替えシート・替えモップなどの収納や、ゴミ箱として使うこともできます。



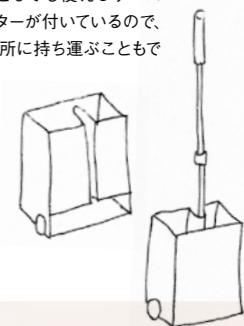
ちりとりにもなるケース

モップがけで残った細かなゴミを掃き込むちりとりとして使えるケースです。背面を向けて収納することで、モップの先端を隠す構造。掃除用品システムのほうき用スタンドにもなります。



まとめて置けるケース

モップ本体と替えシート・替えモップなどの周辺用品をまとめて収納でき、ゴミ箱としても使えるケースです。キャスターが付いているので、そらじする場所に持ち運ぶこともあります。



その結果、「スリムなケース」になりました。

最も得票数の多かった「連結できるスリムケース」をもとに、寄せられたコメントを読み込んで検討を重ねた結果、この型に求められているのは「スリムであること」と考えました。構造・サイズ・素材・価格など、さまざまな課題をクリアするために試作を繰り返し、到達したのがこの形。安定感のある横長で、連結の機能は省いて、屈まなくてもフタを開閉できる構造にしました。

掃除用品システム フローリングモップケース
[8779642] 約27×奥行9×高さ14cm
税込600円 [11月発売予定]



ソウジとは?
気持ちよく料理するためにも、
きれいにしておきたい。



店のドアを開けると、まな板の上でとんとんと野菜を刻む音が聞こえてきました。開店3時間前、奥のオープンキッチンでは、オーナーシェフの佐藤さんとスタッフが下ごしらえの真っ最中。レンジフードの下には磨き込まれたお鍋やフライパンが整然と吊るされていて、お料理する人の姿も全部見えます。

素焼きレンガと木を組み合わせた床、温もりのあるテーブル、大理石のカウンター…清潔で心地よい店内は、レストランというより、親しいお友だちの家にいる感じ。「普通のごはんを安心して、くつろいで食べられるお店にしたい」という佐藤さんの思いが、そのまま映されたアットホームな雰囲気です。「ことこと」という店名も、鍋やまな板から聞こえてくる台所の音から名づけられたといいます。

「料理人にとって、掃除とは何ですか?」そんな問い合わせに対して、佐藤さんから明快な答えが返ってきました。「自分が気持ちよく仕事をするためのもの。そして同時に、お客様に気持ちよく食事をしていただくためのもの」。そのためには、調理道具や食器類をきれいに保つことも、掃除のうちなのでしょう。カウンターの棚にさりげなく置いてあるワイングラスや水差しは、驚くほどピカピカです。家庭では、なかなか、こうはいきません。



中目黒のごはん屋さん「ことこと」のオーナーシェフ、佐藤ひろみさん。

底を包み込むようにして、回しながら拭いていくと、キュッキュッという小気味よい音とともに、グラスが輝きを増していきます。ふきんは、ワッフル織りと日本手ぬぐいを愛用。

とんとんとん、たったたたたた…素足で床をたたくような音を響かせて、若い雲水が雑巾をかけながら走り抜けていきます。百間廊下と呼ばれる、長い長い廊下の雑巾がけ。その軽快な音は、まるで歌舞伎の花道を役者が駆け抜けていくように聞こえます。

ここは、曹洞宗の大本山總持寺。15万坪という広大な敷地の中では、160人の雲水が日々、修行に励んでいます。禪寺では、日常の行いのすべてが修行。特に雑巾がけや掃き掃除、窓ガラス拭き、草むしりといった労働は「作務」と呼ばれ、「静の行」の坐禅と並ぶ「動の行」として重視されます。

その作務のひとつが、七堂伽藍をつなぐ廊下の雑巾がけ。雲水たちは朝昼の二度、152mある百間廊下の3倍以上の距離を雑巾がけするわけですから、想像しただけでもかなりの重労働です。どんなに若い雲水でも、最初のうちは10mも雑巾がけすると息があがってしまうとか。それが1週間で少しあまともにできるようになり、1年もたつと、きっちりと雑巾がけができるようになります。年齢の高い人でも、毎日訓練することで不思議な力が出てくるというのは、修行の成果なのでしょう。

毎日、日課としてつづけているうちに、何も考えずにできるようになり、嫌だと面倒臭いといった気持ちもなくなり、心地よくなっていくのだとか。それはつまり、視点が変わったということであり、辛いと思っていた労働が、実は自分のためであり、人のために



ご自分の経験を生かして、
雲水たちの指導にあたる
花和浩明老師。

もなる、ありがたいことだと気付くのだそうです。

この作務のとき着る衣服が、作務衣。たしかに動きやすく機能的に作られていて、朝の廊下の雑巾がけでは全員の雲水が作務衣姿でした。ところが、寺の中には作務衣では掃除できない場所もあるといいます。ご本尊のお釈迦様を祀る仏殿、寝起きをし、座禅や食事をする禪堂など。

いずれも聖なる場所なので、正装して掃除をしなければならないのだそうです。「掃除はそれを通して自分を磨くこと。坐禅と同じように、毎日つづけることで作法として身に付き、身につけてしまえば本質が見えてきて、楽しめると思いますよ」—穏やかな顔でお話しされる花和老師の言葉は、ご自身も20年前にこの總持寺で3年間の修行をされたというだけに、実感がこもっています。若い雲水たちも、日々廊下を磨きながら、自分の心を磨いているのでしょうか。朝昼の二度、一日も欠かすことなく何十年も拭きつづけられてきた廊下は、黒光りして、歩く人の姿を鏡のように映し込んでいました。



ソウジとは?
毎日つづけることで身につき、
身につけば楽しくなる。



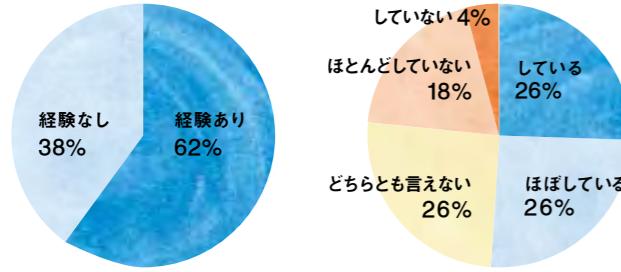
ナチュラルクリーニング

忙しい日常の中、限られた時間内にできる合理的なそうじを求める一方で、環境に配慮した安全な洗剤も好まれているようです。重曹やクエン酸を使ったナチュラルクリーニングについて、みなさんからのアンケート結果をご紹介します。

「そうじ道具についてのアンケート」2009年11月実施 9,247名参加

ナチュラルクリーニングの経験はありますか？

経験のある方は、今も続けていますか？



経験者は6割。
続けている人は、そのうち約半分。

ナチュラルクリーニングの経験がある方は62%にも及びます、その中で「今も継続している／ほぼしている」と答えた方は52%。約半分の方が何らかの理由で使用を止めています。



おそうじガイド付
ナチュラルクリーニングセット
[7231298] 税込1,050円

無印良品のレシピカード >>>

WEBでダウンロードできます。
http://www.muji.net/lab/cleaning_card.pdf

汚れを落とすしくみ

汚れやニオイは、酸性とアルカリ性に分かれます。そうじの基本は、汚れを中和させること。酸性の汚れには弱アルカリ性の重曹で、アルカリ性の汚れには酸性のクエン酸で、汚れを中和します。ひどい油汚れや頑固な黒カビなどには、石けんや酸素系漂白剤の助けを借ります。

重曹とクエン酸の特長

どちらも人体や環境にやさしい食品由来の素材です。汚れの種類によって若干の効果の差はありますが、どちらも家中のおそうじに幅広く使えます。

酸性の汚れ
皮脂汚れ・湯アカ・生ゴミ類
←重曹でそうじ

アルカリ性の汚れ
尿・石けんカス・タバコのヤニ
←クエン酸でそうじ



達人にききました。

ナチュラルクリーニングを楽しく長く続けるには、どうすればいいのでしょうか？
日常的に実践していらっしゃる山崎美津江さんに、上手に使いこなすためのコツを教えていただきました。



汚れの落ちるしくみがわかれれば、楽しくできると思いますよ。

山崎さんが重曹を使い始めたのは、いまから7～8年前。アルカリと酸で中和させることによって汚れを落とすしくみを知り、みんなで実験してみて、その効果に驚いたのがきっかけだそうです。

こんなにいいものが、なかなか普及しないのは、なぜだろう？と考えたとき、2つのことがきちんと説明されていなかったからだと思われました。

その1つは、「汚れはアルカリと酸を中和させることによって落ちる」というしくみ。家庭の汚れの8割は脂肪酸と呼ばれる酸性の汚れなので、弱アルカリ性の重曹で中和されます。

もう1つは、濃度の問題。重曹の水溶液は濃度8%を超えると白くなってしまいますが、もっと薄い濃度でも汚れは充分落とせるし、反対の性質を持つクエン酸水で中和させると、白残りを消すことができます。



そうじ道具は、洗濯機の横でスタンバイ。必要な時、いつでも取り出せます。



レンジまわりには重曹水のスプレー。

日常的な油汚れやふきこぼれには、重曹水をスプレーしてしばらく置き、その後、布で水ふきします。



排水口のクリーニングでニオイ取り。

同量の重曹と酢を排水口に注ぎ、発泡作用で汚れを分解。30分以上おいて、お湯で洗いします。



水アカ取りには、クエン酸パック。

水アカのついた部分にトイレットペーパーを巻きつけクエン酸水をスプレー。ラップすればより効果的。



軍手に重曹水をスプレーし、楽々掃除。

軍手の上から重曹水をスプレーし、その手でふきそじ。ドアノブやインターホンなど、細かいところに。



便器と床の境目に、ニオイのもとが。

重曹水をスプレーしてしばらく置き、その後、ヘラに布を巻きつけたものを差し込みながらふき取ります。



ナチュラルクリーニングのレシピカード。

慣れるまでは、レシピカードがあると便利。写真は山崎さんが婦人之友社と共同開発したもの。

クエン酸

- 果物の酸味成分
- 酸性
(アルカリ性の水アカや石けんカス、尿などの汚れを中和し、落としやすくする)
- 溶解＆洗净作用
(水中的カルシウムを溶かし、水アカとなるのを防ぐ)

*クエン酸は塩素系の漂白剤と混ぜると、有毒ガスを発生するおそれがありますので、注意が必要です。

重曹

- 「炭酸水素ナトリウム」「ベーキングソーダ」と呼ばれる天然ミネラルの一種
- 弱アルカリ性
(酸性の汚れや皮脂汚れを中和し、落としやすくする)
- 細かな粒子による穏やかな研磨作用

くらしの良品研究所の活動

旅について



旅のコラムには、多くの方から投稿が寄せられました。2010年5月には「キャリーにのせられる機能的バッグ」と「旅の持ち物」についての人気投票とアンケートを実施。みなさんの声をもとに、新商品『キャリーオンバッグ』のショルダー型とトート型の2アイテムが来春デビューする予定です。また、旅の持ち物についても、得票数の高かったものを中心に商品開発が進行しています。

環境のこと



無印良品は、綿繊維をバイオエタノールとして再生する新しい技術を中心に、繊維製品の100%リサイクルをめざす企業連携事業「FUKU-FUKUプロジェクト」に参加しています。綿をバイオエタノール化する技術開発の経緯や、このプロジェクトへの無印良品の取組みをWEB上でも公開しています。また、無印良品ではフェアトレード商品の普及・促進を目的としたフェアトレード・ラベル運動に賛同し、2006年より全国の無印良品でフェアトレードのレギュラーコーヒーを発売。2007年には紅茶の販売も始めました。2008年以降は毎年5月のフェアトレード月間に、無印良品有楽町アトリエ MUJIで「フェアトレード展」を開催。多くのお客様にフェアトレードの意義やしくみを知っていただくための取組みを続けています。そして2010年9月には、全国14店舗のCafé MUJI、Meal MUJIで販売するコーヒーをフェアトレードに変更しました。情報はWEBで常時発信しています。



収納について



どんな家にも合うようなサイズ体系や色、素材など。無印良品はこれまで、「収納」を最も重要なテーマのひとつとして取り組み、さまざま提案をしてきました。そして今年8月、日常の生活の中でのどのように収納しているか、改めてみなさん収納についてのご意見をうかがいました。これからも、みなさんと一緒に収納の知恵を集めていきたいと思います。

住まいのかたち

「生活動線から『くらし』を考える」と題して、さまざまな間取りの中からみなさんを選んでいただき、ご意見をうかがっています。その結果をまとめて、無印良品の「くらしのかたち集」としてまとめるべく、準備を進めています。

縁について

2010年3月のベランダ菜園キット発売に伴い、その際にモニターになっていただいた方に体験レポートをお願いし、WEB上で公開しています。9月には全4回のレポートが終わり、多くの方がご自分で育てた野菜を食べることができました。

Found MUJIについて

2010年9月から無印良品の大型店舗とネットストア限定で、中国で見つけたFound MUJIを展開しています。今回の商品は中国・景德鎮で見つけた歴史ある青白磁の器や中国の朝の食卓に欠かせない豆乳の器たちです。これからも世界で見つけた知恵や工夫を、みなさんにご紹介していきたいと考えています。

<http://www.muji.net/lab/>